

## 7 章 2016 年度 COC 事業広報関連資料

COC 事業ニュースレター2016 年秋号

COC 事業ニュースレター2017 年春号



# 市看×いちかん ちいき通信

## 2016年 秋号

2016年9月10日 発行

いちかん…神戸市看護大学の略称「市看」  
「(い)っしょに(ち)いきづくりについて(かん)がえる」をコンセプトにしています。

### 今号の内容



- P1 ・‘錯覚’  
・COCコラボ教育ピックアップ
- P2～3 COCフォーラム  
・地域の顔  
(須磨区菅の台地区  
榎本辰夫さん)
- ・地域づくり・健康づくり  
(まちづくりスポット神戸  
向山良子さん)
- ・コラボ教育での学び  
(編入3年生 苦田ひとみ)
- ・COC研究ひろば第7回  
(地域・在宅看護学 波田弥生)
- P4 活動予定

## ‘錯覚’

神戸市看護大学 事務局長 丸一功光

落語が好き。お馴染みの長屋の八つあん、熊さん、夜鳴きそば屋おまけに幽霊まで登場する。この煩わしくて面倒な人々が、小さな事件を起こしては大騒ぎをしながら生き生きと暮らしている。そんな世界をしばし覗き見するのだが、年に2、3回演芸場に足を運ぶ程度では、たいした満腹感も得られない。

そこで、高度情報化社会を生きる私は、大胆にも、この落語をスマホやパソコンを頼りに何とか楽しめないかチャレンジするのだが、未だに成功したためしはない。兎も角おもしろくない。“どうしたもんじゃろう”とNHKの朝ドラの主人公のごとくため息をつく始末だ。

もやもやしているうちに、茶道裏千家家元・千宗室さんのあるご講演の

記事が目に入った。「私たちに‘錯覚’もあります。高度になった情報化社会に携わる私自身は、高度にはなっていないのです。」そうだ、演芸場の臨場感、自分の楽しみまでスマホ、パソコンに売り渡すことはないのです。いかに演芸場に足を運ぶかの工夫に方向転換だ。

さて、「(い)っしょに(ち)いきづくりについて(かん)がえる」は、この陥りやすい‘錯覚’を克服する約束のキーワードだと思う。COC事業、今後本格化するCOC+事業による実体験が、高度情報化社会に埋没することなく、忘れがちな工夫を取り戻し、必要な集中力によって何を付け加えたらよいか分かってくると、いちかん(市看)のメンバーのひとりとして自分自身にも言いたい。

### COCコラボ教育ピックアップ ～2016年春から夏「健康学習論」～

3年生を対象に公衆衛生看護の活動の一つである、集団を対象に科学的根拠に基づいた健康教育・健康学習の企画・実施・評価の一連の過程を学ぶ、「健康学習論」を開講しています。学生たちが企画した健康教育に教育ボランティアの方に参加いただき、本学と須磨区の2ヶ所に分かれて実施しました(トップページ写真は、その模様)。須磨区では10名の住民の方に参加いただき、「ストレッチでストレス解消」「睡眠時無呼吸症候群」「転倒予防」の3つのテーマで発表を行いました。教育ボランティアの方は、学生が実施する運動を一緒に行なったり、説明をメモしておられ、健康教育の実際をしっかりと体験できたと思います。「近い将来医療に携わってくれる人たちとお会いして、ホッとしました」「基礎的なことを理解できた」などの感想をいただきました。

(神戸市看護大学 地域連携教育・研究センター准教授 相原洋子)

## 地域の顔

～民生委員として高齢者の生活について感じたこと～

須磨区菅の台 7 丁目民生委員 榎本辰夫

私が住んでいる地域は 450世帯あり、民生委員として見守りをしている方はそのうち約 85名で、高齢夫婦世帯や 1人暮らしの方々です。その方々の多くは、買い物や食事のことなど自分の身の回りのことはできる人ばかりですが、私が声をかけに行きますと皆様とても喜んでくださり、また私にとっても励みになっています。中には 1ヶ月ほど誰とも話しをしておらず、「テレビと話すだけだから、私の話す声がとても嬉しい」と言ってくれます。家族や親戚などとうまく連絡がついていないのでは、と感じています。

高齢の方が自分自身のことをできるだけ自分で行なっていくには、新聞・テレビや地域だよりを見ていろんな情報を知ることが大切です。名谷あんしんすこやかセンターの介護リフレッシュ教室に参加して、在宅で認知症や脳梗塞で身体が上手く機能できない方を介護されているご家族に、日ごろの介護上の悩みや体験を聞きにいらしています。その多くは男性の悩みです。高齢の男性の多くは、若いころに家事の手伝いをしてこなかったことで、家の中のことが出来ないということです。今は若い夫婦が買い物などを一緒にしている風景をよく見かけ、とても協力的だと思っています。世の中は後期高齢者のことばかり取りあげて、若い世代が高齢化社会をどう乗り越えていくかが大きな課題となっています。しかし高齢者が若い世代から見習うこともあると思います。

私自身は現在69歳で、見守りの対象の方は72歳以上ですが、年齢の近い方も多くおられます。自分が若いときは年をとったらいろいろな計画を立てていましたが、年齢を重ねた今、1日1日を大切に生きていこうと思っています。

## 地域づくり・健康づくり

安心して暮らし続けられる地域づくりに向けて

まちづくりスポット神戸マネージャー 向山良子

『まちづくりスポット神戸』(以下、まちスポ神戸)は、地域住民による地域課題解決のための活動をサポートする目的で、垂水区の商業施設「BRANCH神戸学園都市」に2013年12月にオープン。大和リース株式会社と認定NPO法人CS神戸が協働で運営しています。

1日平均50人が訪れ、買い物ついでに何気なく立ち寄りの方から「自分も何かしたい!」と地域活動に高い関心を持つ方まで、行政枠や世代を超え、多様な層が来館します。

まちスポ神戸では、さまざまな講座を開催し、地域活動の相談、子育て支援事業、大学連携事業などに取り組んでいます。

大学連携事業として、出張ゼミや共同企画の講座、音楽サークルのみなさんによるカレッジ音楽祭の開催のほか、「学生コミュニティ活動応援助成」を設置し、地域活動を行なう学生サークルを支援しています。7月8日には、神戸市看護大学図書館ツアーを実施し参加者17名が、貴重な文献や実習施設を見学させていただき、「看護大がとても身近に感じられた。」との声が寄せられました。

講座では、ニーズに応じて、気軽に参加できる「まちそだてサロン」、活動の担い手育成を目指す「まちそだて講座(本科)」、専門家の指導による「まちそだて講座(専科)」の3つの枠組みで実施しています。講座修了生が次のステップに向かえるよう、相談に応じ、活動のあとおしをして、現在、登録団体は53団体となっています。

また、高齢化社会という課題に向け、「神戸市生活支援・介護サポーター養成研修」や「居場所サポーター養成講座」を開催し、健康寿命の延伸や地域の担い手づくりに特に力を注いでいます。「最後まで安心して暮らすことのできる地域づくり」に貢献できるように、商業施設をプラットフォームとした「まちそだて」に取り組んでいます。



菅の台地区ふれあい給食  
毎月第4火曜日に実施 筆者は右端



居場所サポーター養成講座  
2016年2月に全3回実施し、  
15人の方が参加された

## 【コラボ教育での学び】 ～地域住民の健康意識を高めるために必要なこと～

神戸市看護大学 編入3年生 苫田ひとみ

私は以前から、疾患を抱える方の御家族や近隣住民の方々など、地域で生活する方への健康教育に関心を持っていたのですが、これまでの看護師経験の中で健康な方を対象とした学習会を企画したことはありませんでした。今回、健康学習論の授業の一環として、地域ボランティアの方を対象に健康教育を行う機会があり、地域ボランティアの方々の率直な意見や感想、一緒に企画した学生メンバーとの情報交換によって、多くの学びを得ることができました。

地域住民の方は、生活環境や習慣、おかれている立場や健康状態など、背景がそれぞれに異なります。多忙な毎日の中で自分の健康について考え、食事や運動などに気を配りながら生活をされている方は、まだまだ多くありません。まずは自分自身の健康について考え、日々の生活を振り返る機会をもっといただくことが大切だと思います。看護師の視点からは、様々な方の健康リスクを偏りのない広い視野で捉えていく必要があります。そして住民の方に、より興味を持っていただける方法で、分かりやすく問題提起を行っていく取り組みが必要です。そのために、今回の演習での学びからその重要性を認識した5つの項目、すなわち①「看護師間や他職種間での情報共有、情報交換によって、多角的に問題を把握する」②「地域住民の背景を知り、根拠に基づく対象理解によって、教育の必要性と目的を明確にする」③「対象に合わせた説明や表示内容など、分かりやすい伝達方法を駆使する」④「柔軟な思考力と行動力によって、起こり得る可能性に幅広く対応できるよう備える」⑤「継続教育のための効果的な評価方法を検討し、行動や与えた影響の評価を行う」を実践しながら、より多くの方の健康意識の向上と、健康的な日常生活の継続のために取り組んでいきたいと思います。



健康学習論での学外学習  
(北須磨支所保健福祉課事業室にて)

## 【COC 研究ひろば 第7回】

～地域における健康づくり活動を続ける健康づくりリーダーの力～後編

神戸市看護大学 地域・在宅看護学分野 講師 波田弥生

前回(2016年春号)は、須磨区における健康づくりリーダーの皆さんが、それぞれの地域で実施されている「健康づくり活動」についてお伝えしました。今回は、COC共同事業として、その活動に参加されている方々の健康への効果と、これらの活動を継続されている要因について、須磨区役所と共に調査をおこないましたので、結果の一部を紹介します。

2014年に、健康づくり活動に参加されたリーダーと参加者の皆様にアンケート調査をおこないました(回収率96.4%)。以下に概要を掲げます。

回答下さった方:189名(男性22名、女性167名、平均75歳、区内居住年数平均33年)  
 健康づくり活動参加により地域での交流の広がりを感じておられる方 … 92.6%  
 ご自身が健康であると感じている方 ……………… 87.9%  
 健康を意識した生活習慣を心がけている方 ……………… 81.8%  
 健康づくり活動について地域の方へ伝えて広めておられる方 ……………… 59.3%  
 健康づくり活動で得られた知識を地域の方へ伝えておられる方 ……………… 65.5%

回答者の中でも、健康づくりリーダーの方々は、より健康に対する心がけを普段からされている傾向にありました。また、2015年に行った健康づくり活動を続けておられるリーダーの方々へのインタビュー調査では、これらの活動を長年続けて来られた理由として「参加者に楽しんでもらいたい」「自分も楽しんで参加している」「自分が健康であることを地域へ還元したい」、「健康づくりに力を入れている区役所と共に活動している意識がある」等のお話しをうかがいました。

このように、健康づくり活動へ参加されている皆様は、身体的な健康の維持増進と、地域の方々との結びつきも広げておられました。そして、リーダーの方々は、参加される方々が楽しめるよう工夫を重ねられており、熱い思いをもって活動を継続されていました。私自身もアンケート調査やインタビューでお会いした方々から、とても元気をいただきました。これからも、これらの活動を続けていくこと、そして活動継承にむけたご提案ができればと考えています。



活動の様子

## 活 動 予 定

### 10月

**コラボ教育「睡眠を見直そう」**  
生活リズムやよく眠るための工夫について講義・懇談を行います  
日にち：5日(水) 10:20～12:00  
場所：須磨パティオホール  
(参加無料/定員30名)

**COC+3大学合同報告会**  
日にち：15日(土) 13:00～17:00  
場所：園田学園女子大学

### 12月

**2016年度シンポジウム**  
**「在宅ケアのつながる力を育む」**  
在宅医療をすすめるための多職種連携  
日にち：3日(土) 午後  
場所：神戸市看護大学ホール  
(参加無料/定員500名)

**コラボ教育**  
**「ヘルスプロモーション論」**  
5日(月) 9:20～10:00  
場所：ユニティ

### 11月

**2016年度市民公開講座**  
**「震災を乗り越えた神戸からの発信」**

日にち：12日(土) 13:00～17:00  
場所：須磨区役所多目的室  
(参加無料/定員200名)

各催事の参加申込みについては、地域連携教育・研究センターまでご連絡ください

## お知らせ

10月から12月にかけてイベントが続きます。10月15日(土)はCOC+3大学合同報告会において、3大学の学生が一堂に会し意見交換会を行います。11月12日は市民公開講座を開催します。「震災を乗り越えた神戸からの発信～『人・地域』のつながり～」をテーマに、市民を交えたパネルディスカッションを行います。12月3日は「在宅ケアのつながる力をはぐくむ」をテーマにシンポジウムを開催します。多彩な専門職をお迎えし、多職種連携についてディスカッションを行います。「実りの秋」といいますが、皆様にとってきっと「実り多き時間」になると思いますので、ぜひご参加ください。

## COC編集部門のつぶやき

我が家に数匹のナメクジがやってきた。野菜に小さいのが続けざまに紛れ込んできて、しばしのつもりでカップに入れたのがきっかけだ。敬遠されがちな生物だが、観察していると1匹ごとに個性があり面白い。興味を惹かれ調べてみると、陸貝であるカタツムリが「殻」を失うことでナメクジになったようだ。ナメクジが進化して殻を得たのがカタツムリでないのが意外だが、陸上で殻を維持するためカルシウムを摂取する労力を考えると成る程と思える。安全な鎧を捨ててまで身軽さや自由を選んだとも言えるが、確かにうちのもゆっくりだが身軽に動き回っている。足立則夫氏は「ナメクジの言い分」(岩波書店)中で「ナメクジに学ぶ」と題して、見せかけの殻を徐々に脱ぎ去ってゆったりと自在に生きる事を提案している。そうすれば、本質よりも量や形式を追って疲弊しがちな日常を変えていけるかもしれない。さて、お知らせですが、「ちいき通信」は季刊から春秋の発行に変わりましたが、年2回と回数は少なくなりますが、今後ともご協力よろしく願いいたします。

(COC編集部門・AF)

発行所： **神戸市看護大学 地域連携教育・研究センター**

〒651-2103 神戸市西区学園西町3丁目4番地 TEL：078 (794) 8048

問い合わせ先：kangococ@tr.kobe-ccn.ac.jp

平成28年度 第310号 (広報印刷物規格 B-1類)



## 今号の内容



- P1 ・ロゼトの奇跡  
 ・COCコラボ教育ピックアップ
- P2～3 COCフォーラム  
 ・地域の顔  
 (教育ボランティア交流会)  
 ・地域づくり・健康づくり  
 (就職説明会・訪問看護師  
 として働くこと)  
 ・コラボ教育での学び  
 (ヘルスプロモーション論)  
 ・COC研究ひろば第8回  
 (地域連携教育・研究センター  
 石井久仁子)
- P4 活動予定

市看×いちかん

ちいき通信

2017年 春号

2017年3月10日 発行

いちかん…神戸市看護大学の略称「市看」

「(い)っしょに(ち)いきづくりについて(かん)がえる」をコンセプトにしています。

## ロゼトの奇跡

健康科学分野 准教授 加藤憲司

私は疫学という学問を専門としています。疫学とは、主に病気の原因を解明することを目的とする学問です。その疫学界隈で、昔から伝説のように語られている逸話があります。

1950年代、米国ペンシルベニア州にある人口1000人ほどのロゼトという町に、疫学者らの注目が集まっていました。なぜかと言うと、この町の住民の心筋梗塞の発症率が、同じような生活様式を持つ周囲の町と比べて、半分以下と大幅に低かったからでした。他の病気も同様に少なく、老衰が死因の第一位だったのです。この事実は「ロゼトの奇跡」と名付けられ、研究者らがその理由を探ろうと熱心に研究しました。

その結果、研究者らは次のような結論に達しました。このロゼトの住民は19世紀末にイタリアから移民してきた人々であり、周囲の他の町と

比べて住民どうしの共同体意識が強く、お互いに親密なコミュニケーションがありました。そのため、「何かあっても誰かが助けてくれる」という連帯感が人々に安心感を与え、結果として健康にも良い効果があったのだ、というのがその結論です。

ところが、1960年代に入ると住民たちの世代が変わり、共同体意識が薄れていきました。その結果、心臓疾患などの発症率は周囲の町と差がなくなってしまいました。連帯感が失われることで、健康までもが損なわれてしまったのです。それでもこの歴史的事実は、人と人とのつながり・結び付きがいかに大切かを示す貴重なエピソードとして、現在も語り継がれています。日本は長寿の国として知られていますが、そこにも「ロゼトの奇跡」と同じような秘密が隠されているのかもしれない。

## COCコラボ教育ピックアップ ～2016年秋から冬「基礎看護技術演習I学外演習」～

コラボ教育では、地域住民の生活拠点に出向き、住民の皆様との交流を通して地域の暮らしや人にとっての生活や健康の意味について学びを重ねています。基礎看護技術演習Iでは、「人にとっての睡眠、生体リズム」について、1年生と地域住民と一緒に講義を聴き、小グループに分かれてディスカッションを行いました。学生は、講義と住民の皆様との意見交換を通し、「生活リズム」「睡眠の質」「健康や生活に対する考え方」などについての個別性や多様性に気づき、感想として「看護をするにあたり、自分の当たり前を押し付けず、一人一人に合ったケアをしていく必要があるとあらためて感じた」と意見が出ました。住民参加者からは「睡眠について認識を新たにしたい」「若い世代の考え方や思いに少しではあっても直に触れることができ楽しかった」となどの感想をいただきました。

(神戸市看護大学 地域連携教育・研究センター 助教 石井久仁子)

## 【地域の顔】～須磨区教育ボランティア交流会～

2月8日、須磨区菅の台地域福祉センターにて、COC事業コラボ教育にご協力をいただいている教育ボランティア様、本学教職員、北須磨支所保健福祉課の方、神戸大学地域連携室の方との交流会を開催いたしました。平成26年度よりCOC事業コラボ教育を須磨ニュータウン地区で開始し、今年で3年となります。3年間の活動をもとに、本学と地域との連携を今後どのように進めていくのかを考える機会として、初めて須磨区で交流会を開催しました。交流会は、コラボ教育やまちの保健室の出前事業実施にあたり多大なるご協力・ご助言をいただいている竜が台地区、菅の台地区の民生児童委員協議会様に感謝状の贈呈から始まり、本学、神戸大学の地域活動の紹介、そして長年教育ボランティアとしてご協力いただいている西区在住の大屋庄平様・中塩健彦様から、教育ボランティアとしての経験談を語っていただく構成で進みました。経験談では、「看護師に何か恩返ししたい」という入院経験からの思いをきっかけに本学の教育ボランティアにご登録いただき、活動を始めて「生活が規則正しくなった」「自分の生きがいになっている」ことなど、須磨区の教育ボランティア様にも非常に参考になるお話をいただきました。会の後半は「地域が大学に期待すること」をテーマに参加者間での意見交換を行い、「学生が住民の話しを聞いてくれる時間をもっと増やすとよい」「教育ボランティアとして、何をやればよいのかもっと中身が見える機会があるとよい」「勤めている人も参加できるかわかるとよい」などのご意見をいただきました。これらの意見を参考に、本学のコラボ教育を学生や地域の方にとって、よりよい内容にしていきたいと思えます。



**交流会の様子**  
菅の台地域福祉センターにて

## 【地域づくり・健康づくり】 就職説明会・訪問看護師として働くこと

在宅緩和ケアセンター ほすびす訪問看護師 高谷麻美子さん  
訪問看護ステーション あさんて訪問看護師 岡田 梨佐さん を迎えて

12月19日、本学3年生を対象とした就職説明会が行なわれました。本学COC事業では、「訪問看護の人材育成」を取組みの一つに掲げており、在宅看護分野の講義時間や内容の充実を図ると同時に、看護職の長いキャリアの中で、訪問看護師としての就職に関心を持ってもらうことを狙いとし、本年度初めて、この就職説明会で現場の訪問看護師をお呼びしお話をいただきました。須磨区にある「ほすびす」で働く高谷さんは、病院勤務時代は集中治療室で働かれた経験を持たれ、出産を機に訪問看護師とられたそうです。訪問看護では、ICUでの患者との関わりとは異なる看護と利用者との関係があり、「寄り添う看護」ということを実感として考えるようになったそうです。「あさんて（スワヒリ語で“ありがとう”の意味）」で働く岡田さんは、リハビリテーションに関心を持っておられましたが、訪問看護師の道を選ばれたそうです。訪問看護では在宅での看取りを経験することも多く、リハビリテーションとは求められるケアが異なる中、亡くなる過程を自然に受け入れることができるようになったそうです。



**就職説明会**  
学生を前に訪問看護の仕事についての説明が行われている

座談会では、訪問看護師に関心を持つ2名の学生が参加し、「子育てしながら働けるか?」「一生そこで働くことを考えたときに、訪問看護ステーションという選択もあるのか?」「いきなり新卒で訪問看護ステーションに就職するのはどうか?」という疑問が飛び出す中、高谷さん、岡田さんたちのご自身たちや同僚の方の経験をお話いただきました。まだまだ訪問看護の仕事については、知られていないことも多いですが、在宅看護のニーズが高まる中、本事業を機会に「訪問看護師もいいなあ」と思い将来その職に就いてくれることを期待しています。

## 【コラボ教育での学び】～「ヘルスプロモーション論」学外演習の報告～

12月20日、1年生および編入3年生の必修科目「ヘルスプロモーション論」のコラボ教育を行いました。本年度のテーマは、「アンチエイジングの科学～正しく知って、行うために～」とし、30名の教育ボランティアの方々（西区24人、須磨区4人、垂水区・北区各1人）に参加いただきました。科目担当の加藤准教授から「抗加齢医学」に関する講義を受けた後、学生は教育ボランティアの方から「加齢をどのように捉えているか」「老化を予防する生活」について話を伺いました。年齢、性別の異なる教育ボランティア2名と学生6名でグループをつくり、「老年期にある方の健康と暮らし」に個性や多様性があることに気付いてもらう工夫をしました。学生のレポートでは、教育ボランティアの方それぞれに「老い」に対する感じ方や考え方の違いがあり、その中でも皆、人生において目標を持っていることで元気に過ごしておられることを学んだ記述がありました。また「健やかに老いることとは？」の課題に対し、「見た目は元気そうだが、実際は多く病気を抱えておられた。健やかに老いるとは、病気にならないことだけでなく、社会に自分が貢献していることが生きる目的になっている」「老いるとはあまりいい響きではないが、捉え方、向き合い方で大きく変わることができ、年齢だけが直接老いにつながっていないことがわかった」「老いることは悲しいことではなく、誰にでも訪れることであって、生きている証と話を聞かせていただいた」など、健康や老年期にある人に対して学生自身が抱いていたイメージとの違いについても気付く機会となったと思います。この演習を通じて学んだこと、あるいは感じたことを、2年生から始まる実習で活かしていただきたいです。

以上、「地域の顔」他、報告3点は地域連携・研究センター准教授 相原洋子が行いました。



学生と教育ボランティアの方々の意見交換

## 【COC 研究ひろば 第8回】 ～共同研究が生み出す力～

地域連携教育・研究センター 助教 石井久仁子

COC共同研究は、神戸市が課題に掲げている医療連携の強化や地域ケアシステムの構築等の解決に向けて、訪問看護や継続看護実践が行える人材の育成や、多職種連携のあり方の探求を目的に取り組む研究です。研究は、本学教員が地域ケアの担い手である保健・医療・福祉関係者等と研究チームをつくり、それぞれの知識や経験を活かした多様な視点で検討を重ねながら進めています。

COC共同研究の助成がスタートした平成26年度から28年度までの3年間に、24件（内11件の継続研究を含む）の研究課題が採択され、平成28年度は右記の研究が実施されています。COC共同研究の成果は各種の学会や本学のCOC市民公開講座、シンポジウム等で報告を行っています。私自身も「認知症の高齢者と家族が地域で暮らす力を獲得していく過程と支援のあり方の検討」と「重層的な見守り体制構築にむけた基礎調査：徘徊ネットワーク事業評価のベンチマーク開発」の2つの共同研究に取り組んできました。

共同研究では、研究代表者のリーダーシップのもと、多様な視点をもった共同研究者がコミュニケーションを重ね、協働して探求する1つ1つの過程において、知識の深まりや視点の拡がり、新しい発見があります。また、私のように研究経験が浅い者にとっては、研究の進め方や姿勢を学ぶ貴重な機会になっています。共同研究によって生まれた力が超高齢社会のさまざまな健康・生活課題の解決の一助となり、市民の皆様の福利につながるよう、今後も取り組んでいきたいと思っています。

地域認知症支援ボランティア育成にむけた介入研究

継続看護強化のための教育プログラム案の作成

家族による終末期患者の看取り体験を語る会の設立と体験のデータベース化に関する課題：終末期患者の家族・遺族支援プログラムの実施・評価

強い心理反応や精神症状を有する利用者や家族の対応に困難を感じる訪問看護師を対象にした支援体制の検討

地域診断を反映させた事業目標達成のための仕組みづくりの検討

もの忘れの気がかりがある人の表出されにくいニーズの把握と支援のあり方

平成28年度  
COC共同研究課題一覧

## 活 動 予 定

### 4・5月

4月5日(水) 入学式  
場所：神戸市看護大学

- コラボ教育 (5月～)
- ・基礎看護技術演習Ⅲ (地域の保健室)
  - ・健康行動論 (健康相談)
  - ・健康学習論 (健康教室)

### 8・9月

8月5日(土) 6日(日)  
オープンキャンパス  
場所：神戸市看護大学

9月コラボ教育 (日にち未定)  
まちの保健室 (地域の保健室の  
測定データをお返しします)

### 6・7月

6月コラボ教育  
(日にちは未定)  
・基礎看護技術演習Ⅲ

各催事の参加申込みについては、地域連携教育・研究センターまでご連絡ください

## お知らせ

3月15日は本学卒業式です。今年度卒業する学生は、平成26年度からのコラボ教育を受講した学生たちです。「地域の保健室」として、須磨ニュータウンの菅の台、竜が台地区の住民の方にご協力いただき、ヘルスイインタビュー、健康測定を行う科目では、教職員、地域の民生委員長さんも、いろいろな不安を抱えてのスタートとなりましたが、学生たちはいろいろな気付きをこの演習で得たと思います。地域で学んだことを、ぜひこれからの看護に活かしてほしいと願います。次年度も、本事業の取組みにご協力ください。

## COC編集部門のつぶやき

本ニュースレターは最終号まであと2号となりました。(現「COC事業」は、神戸大学や園田女子学園大学などと共同する「COC+事業」に発展的に解消されます)。残り期間は少なくなりましたが、愛読して頂いている方々に、御礼申し上げます。とにかく、一端終了が控えていますので、戦時用語を用いるならば、「撤退戦/退却戦の準備」が必要です。それで3つほど考えて見ました。①当初の運動プランを想起し、達成できたこととできなかったことの両面を総括して、反省をまとめる、②終了後に遺産を残していくという観点から、さいごに何をしたらよいか考える、③残りの期間のなかで、今から始めて意味のある活動はないのか考える、この3つです。編集子としては、①に関して、大学としての戦略との統合の程度を、もう少しあげておいた方が良かったという総括もありかな、と思っているのですが、読者の方はいかがでしょう。終刊まであと1年、ご意見頂ければ幸いです(ご意見の送付は事務局まで)。(Y.K.)

発行所： 神戸市看護大学 地域連携教育・研究センター

〒651-2103 神戸市西区学園西町3丁目4番地 TEL：078 (794) 8048

問い合わせ先：kangococ@tr.kobe-ccn.ac.jp

平成28年度 第310号-2 (広報印刷物規格 B-1類)